

2025年期 第2回課題研究テーマ（九州補習所）

テーマ	<p>近年、企業における不正会計事例は国内外を問わず増加傾向にあり、その手口も多様化・巧妙化しています。売上や原価、在庫といった財務数値に関する不正は、企業価値の毀損やステークホルダーへの重大な影響をもたらすのみならず、ガバナンス体制の脆弱性や内部統制の不備を露呈させる結果にもつながっています。また、外部環境としては規制当局・監視機関の検査強化、サプライチェーンの複雑化、海外子会社管理の難易度上昇などにより、不正が長期間発見されないケースも散見されます。こうした背景を踏まえ、下記の2点について論じなさい。</p> <p>(1) 経営者の立場に立ち、不正な会計処理を行うとした場合、実際に考えられる財務数値の操作手法を検討すること。検討した不正については、「動機・プレッシャー」「機会」「姿勢・正当化」の三つすべての要因から発生可能性を説明しなさい。</p> <p>なお、扱う不正事例は以下のいずれかから任意に1つ選択すること。業種・企業像も自由に設定してかまわない。</p> <ul style="list-style-type: none">• 売上の過大計上• 架空仕入・原価操作• 在庫の過大計上• 循環取引• 経費の繰延べ <p>(2) 会計監査人の立場に立ち、(1)で検討した不正な会計処理を「どのように発見し得るか」という観点からリスク対応手続きを検討しなさい。なお、不正リスクのアサーションを具体的に明示するとともに、検討したリスク対応手続きがなぜ不正の発見につながるかも説明しなさい。</p>
-----	---